

日吉ダム渇水対策本部の解散について

桂川の少雨傾向により日吉ダムの貯水量が減少したことに伴い、平成 20 年 8 月 8 日に日吉ダム渇水連絡調整会議（第 1 回）が開催されました。

日吉ダム管理所では、渇水状況を十分に把握し、渇水に適切に対処するため同日に渇水対策本部を設置しました。

貯水率は、9 月 19 日 23 時に 20.0%にまで低下しましたが、その後の降雨により貯水率は上昇傾向に転じ、10 月 2 日 9 時現在、貯水率が 66.3 %にまで回復しました。

このため、日吉ダムの渇水対策について関係利水者等と調整が行われた結果、10 月 2 日 9 時より放流量の削減および取水制限が解除されました。

日吉ダムの渇水対策本部も同日同時刻をもって解散いたしました。
ご協力ありがとうございました。

日吉ダムと渇水対策の効果(H20渇水)

(独)水資源機構日吉ダム管理所

① 日吉ダムからの補給

7月から9月中旬の少雨により、日吉ダムから1,370万 m^3 (大阪ドーム※約11杯分)の水を補給しました。これにより、9月19日には貯水率が20%まで低下しました。

※大阪ドームの容量を120万 m^3 として算出



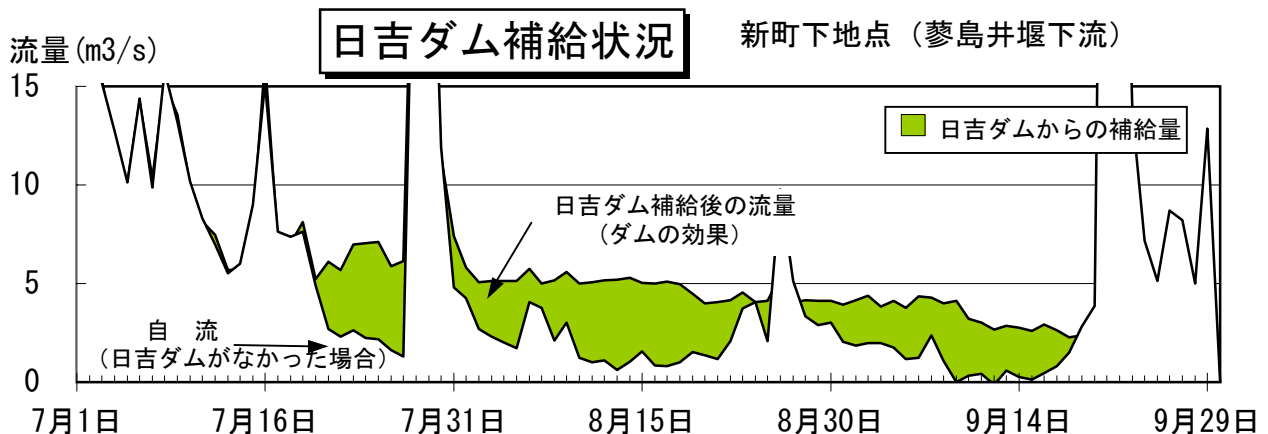
貯水位 標高178.1m(貯水率96.5%)



貯水位 標高168.1m(貯水率20.0%)

② 日吉ダムの効果

このグラフは、日吉ダムより約15km下流のダムからの補給基準地点である新町下地点の水量を比較したものです。



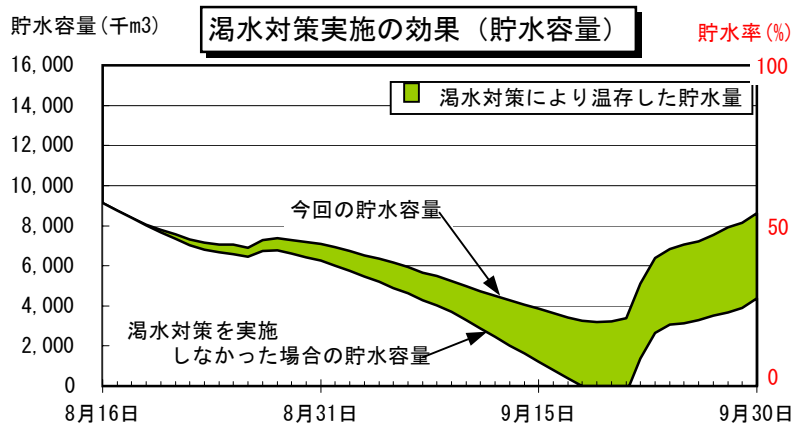
桂川は日吉ダムからの補給によって安定した流れになり、水道用水や農業用水等の利用、河川環境を保全することができました。

日吉ダムから補給しなかった場合は、9月中旬頃に川の流れが途切れる状況になったものと考えられます。

③ 渇水対策の効果

貯水率の低下に伴い、利水者等でダム放流量の削減や取水制限等の調整が行われ、ダムの水を温存することができました。

これらの対策を実施しなかった場合は、9月中旬にはダムが枯渇し河川からの取水が大幅に制限されたものと考えられます。



渇水対策の経過

	放流制限	取水制限		貯水率
	新町下確保量※1	上水道	かんがい	
8月18日	4.0 m^3/s	自主節水		51.5%
9月10日	3.0 m^3/s	20%	20%	30.5%
9月17日	2.0 m^3/s ※2	30%	30%	20.9%
9月29日	2.0 m^3/s ※2	20%	30%	51.6%
10月2日	解除(5.0 m^3/s)	解除	解除	66.3%

※1 新町下地点確保量 5.0 m^3/s (通年)

※2 ただし、前日のダム平均流入量+1.0 m^3/s を上限

渇水対策にご協力いただき
有り難うございました。